

令和7年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) ひろの認定こども園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの年齢においても、その年齢相応の表現方法で「自分の思いや考えを伝える」ことが苦手な子どもがいる。 ・ 自分で又は友達と、発想したり選択したりできる場面をそれぞれの年齢に応じて活動に取り入れているが、自分で選ぶことが苦手な子ども、経験の少ない子どももいる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己肯定感を持ち、自分自身の思いや考えを大切にする子どもを育む。 ・ 友達や保育者の中で互いに認め合い、伝え合うことが出来る子どもを育てる。 ・ 多種多様な環境の中で、自分で選択できる子どもを育てる。
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児クラスから5歳児クラスまで、自分で好きな遊びを選ぶことが出来る環境作りとして、複数の玩具や用具のある遊び場を整える。 ・ 自分の思いや考えを表現できるように、表現の場を整える。 ・ コーナー遊びや多種類の遊びの経験を通して、自分たちで遊びを考えたり選択したりする。 ・ 0歳児：欲求のままに甘えたり泣いたり感情表現ができるように、人的環境を整えて保育者が寄り添う。 ・ 1.2歳児：自分の思いを表現できるように保育者が思いに寄り添う。自分で選んで遊べるように、コーナー遊び等、遊びの環境を整える。 ・ 3.4歳児：遊びの経験や友達との関わりを積み重ねていく中で、クラス内で自分の思いや考えを伝えていく。 ・ 5歳児：クラスやグループで活動するにあたり話し合いを積み重ね思いや考えを伝え合い、自分の思いと相手の思いに気付いたり、向き合ったりする時間を十分に重ねる。 ・ 他児の思いを知り、一緒に考えられる環境を設ける。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児クラスでは特に1.2歳児が、日々の積み重ねから「自分で選ぶ」という機会を多く設け経験できている。12月に行われた「ごっこあそび」は、大好きな「おばけあそび」や「お店屋さんごっこ」から発展したものとなり、毎日、衣装や役を自分たちで決め、違う役や衣装をつける子どももいれば、同じものを選ぶなど楽しんでいて、0歳児も興味や成長に合わせて展開したコーナー遊びを自ら移動して楽しむ姿が多く見られた。 ・ 幼児クラスでも、日々の積み重ねから3歳児は、楽しい思いから困った時の思いまで保育者や友達との会話が増え、自分の思いを伝えることに前向きになり、4歳児では「Aくんより走るの速い！」というB児に対し、周りの子どもたちはB児を否定することはなく「Aくんは頑張ってるよ」「〇〇も得意や」と他児の頑張りを認める声掛けが増えている。 ・ 5歳児では、怪我をしてリレー等に一緒に参加できなかったC児の思い、考えを他児が知る事で、皆で考えそれぞれの役割が明確になった。それからは各々が自分の役割を全うすることで、5歳児全体の士気も高まり、みんなで楽しむことができた。現在は、お店屋さんの遊びから町づくりに発展するなど、想像力や話し合い方にも成長が見られている。
評価	<p>乳児クラスでの「自分で選ぶ」経験は、子どもたちが主体的に遊びに取り組む姿につながっていると考えられる。環境や保育者の関わりによって、子どもたちが安心していろいろな遊びに没頭するようになってきているといえる。また、幼児クラスでは、リレーなどの運動遊びを通して、子どもたちの思いを引き出したり、他児を思いやる気持ちが芽生えるように関わりがなされている。グループでの話し合いも積極的に行われており、お互いの良さや想像力の個性などに目が向くようになってきている。こうした子ども同士の関わりが深まるよう、今後も継続的に取り組むとともに、一人一人の興味関心の深まりが実現するよう、保育を積み重ねていきたい。</p>